島根大学
しろうさぎ 病院ニュース
第 18 号
2009. 10. 1
発行
島根大学医学部附属病院
病院ニュース編集委員会

開院３０周年を迎えて

病院長　小林 祥泰

医学部附属病院が開院してから30年を迎えました。医学部30周年記念事業はすでに終わっているので、今回は30周年を機会に病院のさらなる飛躍を目指す記念事業を中核として位置づけました。

一つは留学生の受け入れ等を推進してきた中国の寧夏医科大学における附属病院同士の医療技術交流センターの開設です。今年度はまず「整形外科医療交流センター」が開設され、大学病院連携型高度医療人養成推進事業の一環として当院から1か月程度の医師派遣を行う予定です。技術指導と共同治療を目指しています。寧夏医科大学病院ではすでに2カ国と同様なセンターを運営しています。また高度医療の必要な患者さんの当院への受け入れ態勢も準備しています。9月30日の病院30周年記念式典には寧夏医科大学病院長を始めとする関係者が参加して盛大に医療交流センター開設を祝いました。今後、他の診療部門にも広げていきたいと思います。

二つ目は現在進行中の病院再開発事業です。すでに新病棟の免震基礎工事が8割方終わって来年中には全容が見えるようになります。新棟では救急部、最新技術に対応可能な手術室を始め、ICU等の大幅増床、腫瘍センター、緩和ケア病棟、小児医療センターなど高度医療とチーム医療を重視したセンター化を図っています。また、外来棟における臨床教育施設の充実に力を入れ、研修医や看護師を引き寄せるマグネット病院を目指しています。また、地上ヘリポートが10月に完成しました。今後準備が整い次第、県西部からのヘリコプター搬送を担当する予定です。患者さん用の立体駐車場も11月中に完成し、いつでも駐車出来るようになります。しばらくの間工事のためご迷惑をおかけしますがよろしくお願いします。

理念
地域医療と先進医療が調和する大学病院

目標　患者さん中心の全人的医療の実践
人間性豊かな思いやりのある医療人の育成
地域医療人との連携を重視した医療の提供
地域社会に還元できる研究の推進

－ 目 次 －

◆ 開院30周年を迎えて…… 1P
◆ 島根大学医学部附属病院30周年記念事業　寧夏医科大学･島根大学医療交流、新病棟建設祝賀会を開催…… 2P
◆ 第6回島根大学医学部附属病院関連病院長会議を開催 …… 3P
◆ 「脳死下における臓器提供シミュレーション」を実施…… 3P
◆ レジメン登録システムの稼動について～レジメン管理委員会～…… 4P
◆ クリニカルパスシリーズ－当科におけるクルティカルパス事情－…… 5P
◆ 歯科口腔外科にがん治療暫定教育医が誕生しました …… 5P
◆ 静脈瘤外来を開設して1年が経過しました…… 6P
◆ 特殊な放射線治療：アイソトープ治療について …… 7P
◆ 高校生手術部体験学習を実施しました…… 7P
◆ 「夢実現進学チャレンジセミナー」参加高校生による医療体験実習 …… 8P
◆ 高校生の一日看護学生･看護師体験…… 9P
◆ 腫瘍センター長就任のご挨拶…… 10P
◆ 治験管理センターの一員となって…… 10P
◆ 医学部初！男性医師による育児休業取得が実現～女性スタッフ支援室より～…… 11P
◆ 出雲空港航空機火災消火救難訓練に本院DMATが参加…… 11P
◆ 地域医療教育シンポジウムin安来…… 12P
◆ 在宅酸素療法（Home Oxygen Therapy)患者会報告　第4回「ほっと（HOT)する会」を開催しました …… 12P
◆ 小児科病棟にピエロがやってきた …… 13P
◆ 故石倉浩人教授追悼式を挙行しました …… 13P
◆ プライバシーマーク継続教育の実施…… 14P
◆ 病院運営委員会の報告 …… 14-15P
◆ ボランティア活動について…… 15P
◆ 研修会･講演会･学会等のお知らせ …… 16P
◆ 癒しのコーナー …… 16P

島根大学医学部附属病院３０周年記念事業
寧夏医科大学･島根大学医療交流、新病棟建設祝賀会を開催

総務課　総務担当室

9月30日（水）18時から出雲ロイヤルホテルにおいて、本院30周年記念式典を、長岡秀人出雲市長を始め行政、医療関係者ら150名が出席し、開催しました。

式典には、本学と交流協定を結ぶ中国・寧夏医科大学から楊　銀学（ヤン インシュエ）附属医院長ら４名を招き、学長挨拶、出雲市長祝辞、楊 医院長挨拶の後、滕（テン）寧夏医科大学対外合作交流処長から寧夏医科大学新築病院の紹介がDVDを交えて行われました。

続いて、木下医学部長の挨拶の後、整形外科学講座内尾教授から、寧夏医科大学附属医院整形外科医療交流センターの設置による両大学間の医師の派遣による医療交流について紹介がありました。

終わりに、小林病院長から、本院の新病棟等の紹介が行われ、本学の高度医療の発展と両大学間の医療の更なる交流を願いました。

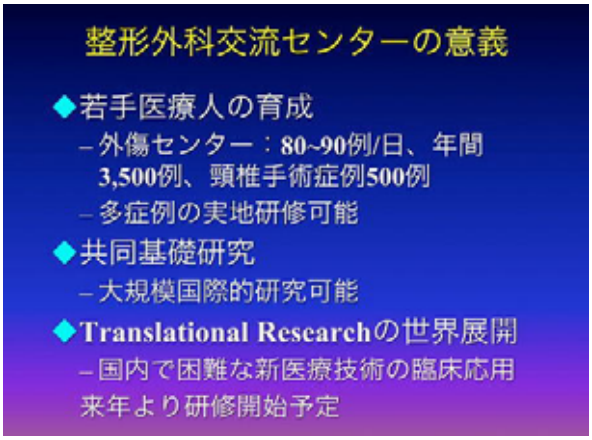
式典に引き続き、懇親パーティーが催され盛会裡に終了しました。

新築された寧夏医科大学病院外科病棟

2009年9月19日寧夏医科大学病院で行われた医療交流、整形外科交流センター発足記念式典でセンター看板の除幕式（小林病院長と寧夏医科大学孫学長）

楊 寧夏医科大学医院長の挨拶

左から、楊医院長、滕処長、小林病院長（懇親パーティー）



第６回島根大学医学部附属病院関連病院長会議を開催

総務課　総務担当室

9月30日（水）17時から出雲ロイヤルホテルにおいて、「第6回島根大学医学部附属病院関連病院長会議」を開催しました。

県内33関連病院の病院長と小林病院長を始めとする本院関係者39名が出席し、地域医療の充実及び地域の病院との機能的な役割分担と連携の更なる構築に向けて、情報交換を行いました。主な内容は次のとおりでした。

１．島根大学医学部附属病院と地域医療について
２．地域医療再生計画について
３．初期臨床研修及び後期臨床研修について
４．大学病院連携型高度医療人養成推進事業について
５．がんプロフェッショナル養成プランの進捗状況について
６．新しいキャリア継続モデル事業－しなやかな女性医療職をめざして－について

「脳死下における臓器提供シミュレーション」を実施

総務課　総務担当室

平成21年8月19日（水）、関係機関を含めた規模で組織的なものは県内初となる「脳死下における臓器提供シミュレーション」を島根大学医学部附属病院において実施しました。今回のシミュレーションには、院内の脳死判定医師や検査部、病理部及び集中治療部の医師、技師、看護師に加え、日本臓器移植ネットワーク西日本支部及びしまねまごころバンクのコーディネーター、島根県警察本部の検視官、県内の臓器提供施設である松江赤十字病院及び浜田医療センターの医師、看護師など70名が参加しました。

シミュレーションでは、本院臓器提供検討委員会の委員長を務める山口修平教授が進行役と解説を担当し、本院で策定した院内マニュアルに沿って臓器提供者発生時の院内対応、関係機関への連絡、家族への説明、脳死判定の手順、必要書類の作成など一連の処理手順を確認しました。

また、日本臓器移植ネットワーク西日本支部の易平真由美チーフコーディネーターから臓器摘出チームとの連携、出雲空港までの臓器搬送、マスコミ対応、記者会見など病院側として適切な対応に欠かせないポイントについてこれまでの全国の提供事例をもとに説明がありました。

シミュレーション終了後には、質疑応答やシミュレーション自体の総括を行ない院内マニュアルの実効性を確認しました。

開会挨拶を行う小林 祥泰 病院長

**進行役を担当する臓器提供検討委員会委員長
山口 修平 教授**

レジメン登録システムの稼働について　～レジメン管理委員会～

呼吸器・化学療法内科　津端　由佳里　　礒部　威

本年5月より、当院でレジメン管理・オーダリングシステムが稼働いたしました(図1）。現在は呼吸器・化学療法内科および乳腺・内分泌外科の外来化学療法で使用されていますが、徐々に使用診療科・使用レジメンは増加する予定であり、今後は外来・入院を問わず抗がん剤の投与はすべて登録されたレジメンのみが実施されるようになります。

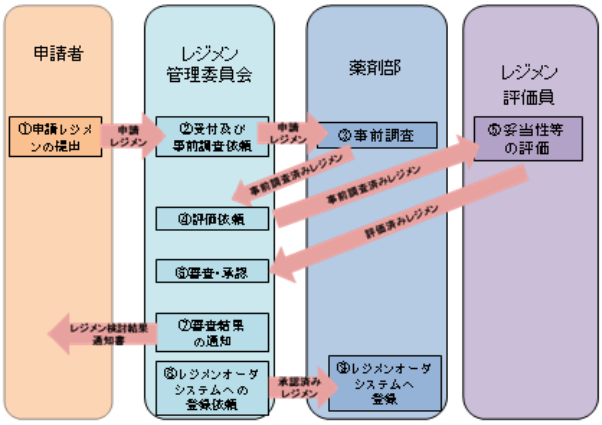
「レジメン」とは聞き慣れないかもしれませんが、がん治療の領域で広く用いられている言葉であり、抗がん剤の投与量、投与スケジュール、治療期間を明確にした治療計画のことです。がん化学療法においては治療効果と安全性の向上および副作用の軽減のため、抗がん剤の投与量、投与速度、投与順序、副作用に対する対策、投与および休薬期間などが厳しく定められています。

当院では、レジメンは多くの臨床試験の結果確立された海外や国内の標準療法をもとに各診療科の担当者が作成し、院内のレジメン管理委員会に提出されます。提出されたレジメンは薬剤部の事前調査を経て、各診療科のレジメン評価員によって妥当性評価を受けた後にレジメン管理委員会で審査・承認されます(図2)。

レジメン管理は現時点では多くの施設において紙ベースで行われていますが、当院では本委員会が中心となって電子カルテ内に新たなオーダリングシステムを構築し、抗がん薬の過量投与、薬剤の誤入力などのエラーが回避されるようになりました。

2008年には化学療法についての院内での充実した体制（相当の経験を有する医師、看護師及び薬剤師の配置の他、化学療法レジメン委員会で妥当性を検討・承認されたレジメンの使用等）が評価され、外来化学療法加算の報酬点数が従来より100点アップの500点に変更されました。また、レジメン管理委員会の設置は地域がん診療連携拠点病院の指定要件となっています。当院は都道府県がん診療連携拠点病院として島根県のがん医療の中心的役割を担う必要があり、今後もレジメン管理システムをより充実させていきたいと考えております。皆さまのご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

（図1）　レジメンオーダー画面



（図2）　レジメン審査の流れ

クリニカルパスシリーズ　ー当科におけるクリティカルパス事情ー

耳鼻咽喉科　木村　光宏　　川内　秀之

クリティカルパスは、病院側のコストを削減しつつ、医療の質を維持することを目的として普及してきました。さらに、包括医療(DPC)制度の導入によって高次機能病院でのクリティカルパス運用が一般的になってきました。当院においても数年前より紙カルテを用いたいわゆる「紙パス」による運用を行ってきましたが、電子カルテ導入と連動した形での電子クリティカルパスが必要となり院内ワーキンググループを中心に準備が進められてきました。当科も参加させて頂き、口蓋扁桃摘出術の電子パスを当院電子パス第1号として稼働しました。この手術は耳鼻科手術の中でも症例数が多く、手術手技もほぼ定型通りで大きなトラブルが少なく、ほとんどの患者が術後約1週間といった短期間で退院するため、紙パスから電子パスへの移行は順調でした。また、タグを選択するだけの簡単なコンピューター操作で術前術後の投薬・検査・指示が可能であり医局員には大好評でした。しかしながら最近では、その後もいくつかの電子パスを作成し運用するにしたがって、どの耳鼻科医師も、細かな点に目を配らずにオーダーが容易であるといった利点に捉われてきている印象を持っています。つまり、操作上クリティカルパスとマルチセットとの違いは曖昧です。また、パス運用は医師にとって大変便利ですが、医師をはじめ看護師、コメディカルの方々とのチームがシンクロナイズして初めて有用なツールとなると思われます。幸いにして、現在のところ、パス導入による医療安全のトラブルはありません。

そもそも､クリティカルパスとは、critical pathway あるいは clinical pathway が語源で、pathwayをパスと略称されているそうです。筆者自身、パスをpassと誤って解釈し、passの通過するといった意味から流れ作業的に仕事をこなせ、かつコスト削減につながる便利なものという感覚で使用していました。事実、電子パスを用いてルーチン業務を短時間で効率良く行うことは、医師不足、過重労働短縮の問題を解決する重要な糸口であり、進化させていく必要があります。他方、passではなくpathwayとは道筋といった意味であり、critical pathwayとは疾患に対する診療の道程のことです。すなわち、医師が行う診療に加え、看護師、コメディカルの誰もが標準的治療を把握し、入院される患者さんの指導、検査、手術、与薬、処置、食事などをより安全で質の高い医療につなげる道しるべのようなものであり、ただ単にコスト削減のためのものでないことが理解できます。

今後当科においては、医師のパスをマルチセットの一種ではないという啓発を行い、当院に合ったパス内容を柔軟に見直していきたいと思っています。そして、クリティカルパスを作成・運用・改変するに当たり、看護師、コメデカルの方と協力し、入院患者さんへの質の高い医療が提供できるよう努力していく所存ですので忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

歯科口腔外科にがん治療暫定教育医が誕生しました

歯科口腔外科　　石橋　浩晃

みなさんは、口腔がんをご存じですか？口腔には舌や歯ぐき、あるいは唾液腺などから様々ながんが発生します。歯科口腔外科では、これらのお口から発生するがん、すなわち口腔がんの治療を担当しています。近年世界中で、がんの治療はがん専門医が担当するべきという考えが広がり、国内でもその体制が整ってきました。そこで、島根大学医学部附属病院でもがん治療専門医の育成に取り組んでいるところです。

今回の審査で、口腔がん治療を指導する教育医として本学附属病院歯科口腔外科から、4名（関根教授、石橋准教授、近藤講師、成相講師）が認定されました。この4名には今後は治療だけでなく、認定医を養成することが義務づけられます。

残念ながら島根県内の口腔がんの治療施設は大学病院だけです。島根県内の口腔がん、あるいは他の口腔の病気の治療についても、今後とも責任を持って治療をすすめていくつもりでいます。

私どもの歯科口腔外科には、口腔がん診断を担当する細胞診専門医と病理認定医も常勤しています。がん治療だけではなく、インプラントを用いた口腔機能再建を含めた一貫治療を提供しています。どうぞ、安心して歯科口腔外科を受診してください。

静脈瘤外来を開設して１年が経過しました

皮膚科　水本　一生　　新原　寛之

●主にこのような疾患を診察しています。

下肢静脈瘤の診断・重症度評価のみならず、下肢静脈エコーを用いて、浮腫・下腿潰瘍の鑑別診断、深部静脈血栓症の診断も行っております。

●静脈瘤の治療は？

浮腫、重圧感、こむら返り、うっ滞性皮膚炎、色素沈着、血栓性静脈炎、硬化性脂肪織炎、潰瘍などのうっ滞症状のある患者さんを手術適応とし、心臓血管外科の先生方の協力のもとに、手術を施行しております。当科独自の治療として①炭酸ガスを使用したフォーム硬化療法、②先進医療取得に向けた内視鏡的筋膜下不全穿通枝切離術があり、現在、倫理委員会の承認を得て、臨床研究が進行中です。また、深部静脈血栓症の予防を目的とした3日間入院、8日間入院パスを作成、運用しております。

●炭酸ガスを使用したフォーム硬化療法とは？

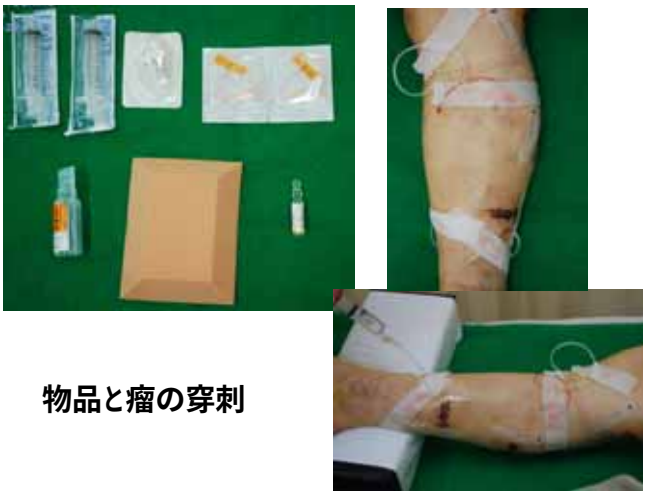
界面活性剤であるポリドカスクレロールを炭酸ガスと混合、攪拌し、フォーム状にすることにより、原液と比較して、接触面積の増加と粘着性の増加が認められます。その結果、硬化能力が高まり、硬化剤の使用量が減少し、副作用の発生率も低下することがわかってきました。また、通常の空気を使用したフォームでは一定の割合で一過性の脳虚血症状が報告されておりますが、当科では炭酸ガスを使用しているため、現在39肢を経験しておりますが、このような副作用は1例も発生しておりません。

●内視鏡的筋膜下不全穿通枝切離術とは？

下腿の筋膜下に内視鏡手術用のポートを挿入し、腹腔鏡手術の要領で送気を行い、筋膜下にworking spaceを作成し、筋肉内の深部静脈から表在静脈への逆流を認める不全穿通枝を凝固切開装置で切離する手術です。小切開手術であり、潰瘍などがある症例でも、皮膚病変を避けて治療ができるメリットがあり、2009年4月に先進医療技術の一つに加えられました。本院も承認を目指しています。

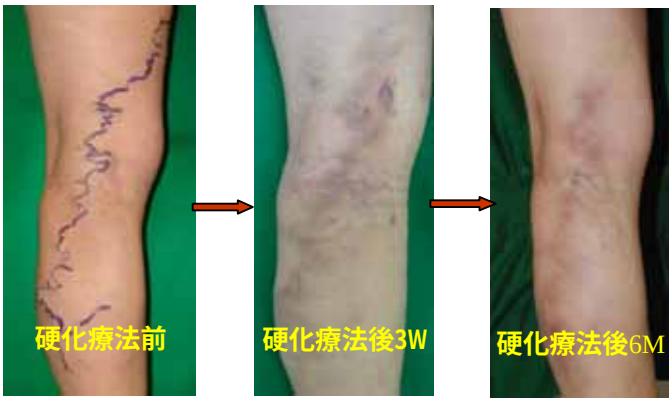
●これからの静脈瘤外来は？

2009年10月より、毎週水曜日を静脈瘤外来といたします。これからも引き続きご紹介よろしく御願いします。



物品と瘤の穿刺

Tessari法と注入



硬化療法後の色素沈着の経時的変化

特殊な放射線治療：アイソトープ治療について

放射線治療科　内田　伸恵

放射線治療科では、3種類のアイソトープ治療が可能です。アイソトープ治療では、まず放射線同位元素（アイソトープ）を投与します。体内の標的病巣に集積したアイソトープは、組織中で数mmしか到達しない弱い放射線を出すため、局所的な放射線治療をおこなうことができます。内照射、非密封小線源療法とも呼ばれます。当科でおこなっているのは、甲状腺疾患に対するヨウ素－131内服療法、骨転移の疼痛治療に対する塩化ストロンチウム－89（メタストロン®）治療、そして悪性リンパ腫に対するイットリウム－90（ゼヴァリン®）による放射性免疫療法です。いずれも病巣の細胞に対してごく局所的な放射線治療をおこなうので、全身的な副作用が少ない治療です。投与方法も1回の注射やカプセルの内服で終了するので、患者さんの負担も少なくて済みます。

ヨウ素-131は、主に甲状腺がんの肺や骨への多発転移の状態が主な適応ですが、内服後約3日間の放射線治療室への入室が必要です。甲状腺機能亢進症（バセドウ病）のコントロールにも有効ですが、これは外来でも治療可能です。

塩化ストロンチウム－89は、がんの骨転移の疼痛治療に用います。国内の多施設研究では、70％程度の患者さんで疼痛が改善しています。外来での注射投与で治療します。

イットリウム－90による放射性免疫療法はB細胞性リンパ腫細胞の表面に発現しているCD20抗原を標的として、CD20抗体にイットリウム－90を標識させたものを外来で注射投与します。化学療法やリツキサンが有効でなかった患者さんの約80％に効果があり、約60％の患者さんで治癒が期待できるという報告があります。山陰地方では初めて、本年4月から当院で治療可能となりました。

これらのアイソトープ治療はいずれも保険適応で、適切な管理指導のもとでおこなえば侵襲が低く非常に有効な治療です。詳細は放射線治療科（電話20-2002）までお問い合わせ下さい。

高校生手術部体験学習を実施しました

手術部　佐倉　伸一

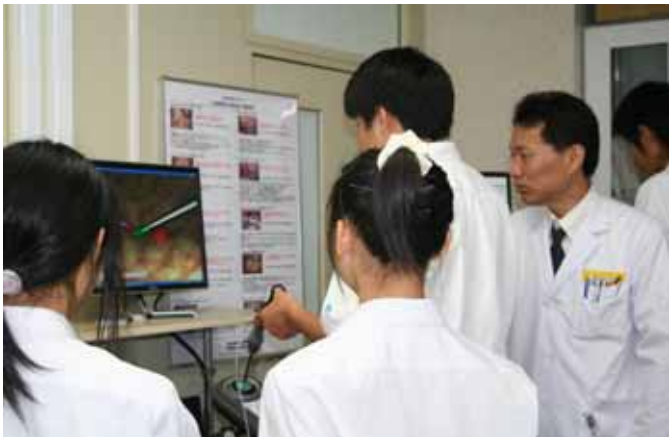
8月11日（火）に県内の高校生を対象に手術部体験学習を実施しました。この体験学習は，将来医師等の医療従事者を目指している高校生を対象として、実際の医療現場を体験することを目的に毎年実施しており、今回は県内8校から25名の参加がありました。

井川副病院長が注意点などを説明した後、グループに分かれて次のプログラムを体験し、医療実践に触れました。

【プログラム内容】

- 実際に行われた手術の見学（術衣着替え、手洗いを行い手術室に入室）
- バーチャルリアリティー手術シミュレーターを用いた内視鏡外科手術の擬似体験
- 縫合手技トレーニングセットを用いた皮膚縫合の体験
- 病理部（病理診断部門）の見学

体験学習終了後のアンケートでは「普段では見られない医療現場の見学や体験が出来る貴重な時間でした。医師になりたいという気持ちが強まりました。」など好意的な回答が大半を占め、今回の企画の目的を達成できたことが確認できました。



山野井内視鏡手術トレーニングセンター長の指導のもと、「バーチャルリアリティー･シミュレーター」を体験する高校生

「夢実現進学チャレンジセミナー」参加高校生による医療体験実習

総務課　総務担当室

医師になって島根県の医療を支えたい。理工系大学・学部へ進学し、将来は島根で活躍したい。など、難関大学の進学を希望し、その突破を目指そうとしている高校2年生が参加対象となる「夢実現進学チャレンジセミナー」（島根県教育委員会主催）が、8月5日（水）～8日（土）に開催されました。

このセミナー期間中、8月7日（金）に島根大学医学部及び附属病院でのプログラムが組まれており、当日はセミナー参加生徒（県内進学校17校から67名）が来院し、次のプログラムを実施しました。

【プログラム内容】

＊木下医学部長講義　－理科系科目が好きな高校生諸君へ　医学部への招待状－

＊各種医療体験実習（6班に別れ、6種類の実習を行う）

・手術見学　術前の手と上腕部の洗浄法実習及び手術の様子を見学

・縫合実習　縫合手技トレーニングセットを用いた皮膚縫合の体験

・リハビリ実習　松葉杖、車椅子、食事介助などの体験実習

・BLS・蘇生実習　AEDを用いた心肺蘇生実習

・内視鏡手術トレーニング　ﾊﾞｰﾁｬﾙﾘｱﾘﾃｨ手術ｼﾐｭﾚｰﾀ及びﾎﾞｯｸｽ型ﾄﾚｰﾅｰでのトレーニング体験

・ビデオ講義　最新のがん治療についてなど。島根大学医学部の学生生活、病院の最新設備を紹介

＊ 内尾教授（整形外科学）の講話　－医学の扉－

密度の濃いスケジュールでしたが、どのプログラムでも大変熱心に実習を受ける姿が見られ、セミナー終了後のアンケート結果からは、医療に携わることの重さと喜び、医療人の使命感と情熱を肌で感じ取り、生徒の心を大きく動かしたことが分かりました。

縫合手技トレーニング

内視鏡手術トレーニングの説明

ＡＥＤ使用法･心肺蘇生法実習

リハビリ実習

高校生の一日看護学生･看護師体験

看護部　八塔　累子

７月22日（水）に40名（7校）の高校生が一日看護学生・看護師体験に参加しました。

今回は、看護部と看護学科との共催で実施し、午前中は、附属病院病棟で看護師の仕事を体験しました。参加者の約半数は、進路を決定するため、看護師を目指しているので現場を体験したいという目的を持っていました。実際の体験を通して、「看護師や助産師にはコミュニケーションがとても大切だということがわかった」と感想を述べる生徒が大半であり、感想を聞く側は高校生であることを忘れ、看護学生の感想を聞いているように錯覚しそうになる場面もありました。看護師とともに直接、患者さんの清拭や足浴を行った生徒は、患者さんに喜ばれたことに感動していました。貴重な、そして充実した時間だったようです。看護職の丁寧で優しい関わりへの感謝と貴重な体験をすることができたことへの感謝の気持ちをいただきました。看護体験後の意見交換では、他校の生徒同士が楽しそうに体験の振り返りを語り合っており、仲間づくりの場にもなったようです。

学生食堂で昼食をとりチョッと学生気分を体験。その後、看護学科で4年次生の「卒業前実技トレーニング」授業の見学と実技（一部）を実施し、看護学生を体験しました。

“看護師がカッコよかった”そうです。

今回、看護体験に参加してくれた内の何人かと一緒に働くことができることを楽しみにしています。

足浴を体験

注射実習を見学

病棟スタッフと一緒に

腫瘍センター長就任のご挨拶

腫瘍センター　センター長
腫瘍臨床研究部門　教授　　鈴宮　淳司

専門は血液・腫瘍学です。はじめて九州以外に住むことになりましたが、島根の方々のやさしさに感激しております。出身は福岡県北九州市小倉です。昭和49年に宮崎医科大学（宮医大）の一期生として入学、昭和55年3月に卒業しました。宮医大附属病院で内科研修医、その後大学院（一病理）の住吉昭信教授（現宮崎大学学長）のもとで、勉強の仕方からお酒の飲み方まで指導を受け、昭和63年3月に修了しました。宮医大一病理で助手を務めていましたが、医師になる時からなりたかった血液・腫瘍医として再スタートを切るべく平成3年4月から福岡大学病院第一内科（奥村恂教授）に入局し、3年間医員として働き、平成6年4月から5年間、菊池昌弘教授（福岡大学一病理）のもと内科医と病理医の２足のわらじを履いていました。外来をしながら術中病理診断をされた経験のある方は少ないと思います。家にいる時間がほとんどなく、それでも娘が普通に育ち家庭が崩壊していないのは家内のお陰と感謝しています。平成11年4月より福岡大学第一内科教授として、以前より指導を受けていました田村和夫先生が赴任されたのを期に、内科医として専念することにし、平成19年3月まで田村教授とともに新しい教室をつくる楽しさを感じながら働かせていただきました。平成19年4月より福岡大学筑紫病院内科第２部長として、勤務していましたが、この度ご縁がありこちらにお世話になることになりました。よろしくお願い申し上げます。学生時代はサッカー部で、最近は年に一度サッカーもどきをするのがやっとですが、その時の仲間とは年に数回宴会だけはしています。宴会やサッカーなど機会がございましたらお誘いください。

治験管理センターの一員となって

治験管理センター
治験コーディネーター　　有馬　志津枝

この度治験管理センターでの業務に携わる事になりました。

就任してまだ2か月足らずですので、業務内容を理解し始めたばかりです。

そんな中、9月12、13日にパシフィコ横浜で開催された「CRCと臨床試験のあり方を考える会議2009 in 横浜」に出席して参りました。CRCとは治験コーディネーターの略称ですが、この会議ではCRC活動の現状や未来像について全国各施設から様々な発表がありました。CRC活動の現状と問題点、具体的には実際の現場における医師、治験依頼者（製薬会社）、コメディカルスタッフ、患者さんとの橋渡しとしての役割、コミュニケーションの重要性、さらにはCRCの将来像に至るまでいろいろな角度から問題提起がなされていました。今後、CRCとしてのキャリアを積み重ねていく上で大変参考になる有意義な会議でした。

今回勉強したことを思い出しながら、まずは日々の業務に慣れていくことが先決、その上で皆さんから信頼されるCRCとなることを目標に頑張りますのでよろしくお願い致します。

医学部初！　男性医師による育児休業取得が実現
～女性スタッフ支援室より～

女性スタッフ支援室　内田　伸恵

女性スタッフ支援室では、6月6日（土）講師に京都府福知山市民病院　内科医長の川島篤志先生をお迎えし、ワークライフバランスをテーマとした講演会を開催しました。当日会場には男子学生や男性研修医の姿も目立ち、学外からも含め45人の参加となる大盛況でした。子供を持つ前と後では医師としての生活がどのように変化したか、家庭のための時間を多忙な病院業務の中からどのようにして捻出したか、またそれが可能な病院の職場環境はどうあるべきか、「1人抜けても回る」チーム医療の大切さ、などについてエネルギッシュに語って頂き、大変有意義な講演会となりました。

この夏、医学部初の男性教員（放射線治療科医師）による育児休業取得が実現しました。これまで極めて育児休業取得が困難とされてきた職種だけに、男女共同参画の観点から大きな進歩であると思います。女性スタッフ支援室では、男女を問わず仕事と家庭のバランスを保ちながら医療職としてのキャリアを継続していけるよう、今後も支援をしていきます。

具体的な支援策としては、病児・病後児保育や一時託児制度、メンター・カウンセラーによる相談窓口などがあります。いずれも利用者から好評を得ており、病児・病後児保育室では昨年度のべ160名のお子様をお預かりしました。相談窓口の利用者も昨年11月の制度開始より着々と増加傾向にあります。相談窓口は女性教職員・女子学生が対象ですが、病児・病後児保育、一時託児は医学部の教職員・学生であればどなたでもご利用できます。

詳細につきましては、下記の女性スタッフ支援室ホームページをご覧ください。

http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/woman/

図：病児・病後児保育の愛称とロゴが決まりました。「ニコニコうさぎ」です、かわいがってください。

出雲空港航空機火災消火救難訓練に本院ＤＭＡＴが参加

総務課　総務担当室

9月10日（木）午前6時、出雲空港で航空機火災事故を想定した消火救難訓練があり、本院のDMAT（災害派遣医療チーム）が参加しました。

訓練には、県立中央病院、松江赤十字病院、松江市消防本部、斐川町消防団、県医師会、出雲市等260人が参加し、救助体制や消防と医療機関との連携を確認しました。

訓練は、東京から到着した航空機が着陸に失敗し滑走路を逸脱、末端付近で停止、炎上し、多数の負傷者が発生したとの想定で行われ、通報訓練、消火訓練、救難訓練が実施されました。仮設救護所に運ばれた負傷者に対し、医師や看護師で組織されたDMATによるトリアージ（負傷者の症状判断による搬送順位の決定や病院搬送の指示等）訓練が行われました。

左から、田邊専門職員（医療ｻｰﾋﾞｽ課）、柿丸医師（整形外科）、渡邊看護師、岩田看護師長、土井薬剤師

地域医療教育シンポジウムin安来

総務課　総務担当室

島根大学では、“育てよう赤ひげの心を持った医師”をテーマに、地域医療問題に悩む地域の住民を対象に住民、行政、医療機関、島根大学の4者が協力・共同して、夢と希望に満ちた人間尊重の地域医療とまちづくりを進めるために、平成16年度から県内の各地域の皆様のご協力を得て「地域医療教育シンポジウム」を開催しています。

第8回目となった今回は、9月27日（日）に安来市民会館を会場として開催され、小林祥泰医学部附属病院長から「島根県の地域医療充実へ向けた取組」と題した基調講演、地元医療機関の医師からのメッセージの後、地元安来市出身の学生からは、地域医療人となるべく意気込みが述べられました。

当日は、地域住民を始め120名の来場者があり、地域医療の現状と今後の展望とあり方について活発な意見交換が行われ、最後に参加者全員で「地域医療教育シンポジウム安来宣言2009」を発してシンポジウムを終えました。

在宅酸素療法（Home　Oxygen　Therapy）患者会報告 第4回「ほっと（HOT）する会」を開催しました

看護部　藤田　直美

看護専門外来では、平成19年7月から家庭で酸素療法を行っておられる患者さんに月1回医師の診察の前後に在宅酸素療法指導を30分以上かけて担当看護師が在宅療養指導室で行っています。

指導内容は、日常生活での注意点(家庭に置いてある酸素濃縮器や携帯用酸素ボンベについて、入浴、感染予防)や呼吸訓練・排痰訓練、ストレスについてなど、患者さん・ご家族と一緒に話し合い快適な生活が送れるように支援しています。

「ほっとする会」とは、家庭で酸素療法を行っておられる「患者さん同士の交流を図ること」を目的に、年2回(春と秋)開催しています。

今回の第4回「ほっとする会」は屋外に、お弁当持参で行く予定にしていましたが、雨天のため病院2階食堂(ランチカフェ・ラパン)で開催しました。参加者は患者さん11名とそのご家族8名、サポート者は呼吸器内科医師6名、酸素取り扱い業者4名、看護部からは6名の看護師、総勢35名でした。当日は、当院栄養士のオリジナル献立弁当を食べ、主任栄養士藤井さんから「在宅酸素療法中の栄養について」の講義を聞き、メモを取られるご家族やいろいろな質問もありました。

今回初めて参加された患者さんから「とても励みになった、いろいろと他の方の経験されたことや工夫されていることが聞けた。そして、自分だけでは無い、と皆様に元気を頂いた。是非次回も参加したい」との声がありました。是非継続して、次回は10月に開催したいと考えています。

小児病棟にピエロがやってきた

小児科　山口　清次

8月4日（火）入院中の子どもたちに「ホットアートプレゼント」が、NPO法人しまね子どもセンターの協力で行われました。男女のピエロ「びりとさくちゃん」がマジックやパントマイムを披露して、小児病棟デイルームの会場に集まった子どもたちを釘付けにして楽しい１時間余りを過ごしました。最後に子どもたちに風船アートがプレゼントされ皆大喜びでした。

故石倉浩人教授追悼式を挙行しました

総務課　総務担当室

8月22日（土）に本学医学部附属病院腫瘍センター主催による「故石倉浩人教授 追悼式」が、出雲市民会館大ホールにおいて、執り行われました。

式典は、ご遺族、学内外関係者約300人が参列し、黙祷に続き、学長挨拶、木下医学部長の学術業績紹介の後、追悼式委員長の小林病院長、日本血液学会の大屋敷一馬監事、同期生の名古屋大学大学院藤本豊士教授、門下生の本学地域医療教育学講座熊倉俊一教授、友人の森本直知氏、医学科6年の岡田隆宏君がそれぞれ追悼のことばを捧げました。その後、参列者による献花が行われ、ご冥福を祈ると共に、がん医療にご尽力いただいた故石倉教授のご遺志を引き継ぎ、都道府県がん診療連携拠点病院としての診療機能の充実とがん専門医育成の更なる取組みを誓いました。

追悼のことばを捧げる小林病院長

謹んでご冥福をお祈りいたします。

プライバシーマーク継続教育の実施

プライバシーマーク教育責任者　花田　英輔

当院のプライバシーマークは本年3月に2006年版で更新認定されて運用中ですが、年1回以上の教育の実施と全員の受講が義務付けられています。本年度は去る7月10日から21日にかけて、教職員および委託業者向けを計5回実施しました。

今回の教育では日常点検と新しい情報が発生した場合の対処を中心に、本年4月に一審判決があった史上初の医師の情報漏えいに関する刑事裁判にも触れ、個人情報保護の重要性と日頃気をつけることについての講義を実施しました。参加者総数は常駐委託業者からの参加者104名を含め1,079名でした。参加できなかった方へは、各職場において別途教育と実施結果の報告をお願いしております。

残念ながら当院でもUSBメモリの紛失やUSBメモリを通したパソコンへのコンピュータウイルス感染等、個人情報の漏えいにつながる可能性がある事象が何件か発生しています。プライバシーマークの維持には手間がかかり、不便さを感じる場合もあると思いますが、情報漏えい事故は病院の評価を揺るがします。個人情報の保護は病院の信頼を高めることにつながりますので、今後もご協力をお願いします。

病院運営委員会の報告

医療サービス課

H21年7月15日　○副診療科長の変更

任期　平成23年3月31日まで

診療科名等	新	旧	発令日
歯科口腔外科	石橋　浩晃	成相　義樹	平成21年7月1日

H21年7月15日　○クリニカルスキルアップセンターの設置

医学科生、看護学科生、看護師、研修医、臨床検査技師等を対象とし、医療の基本手技の実技訓練や模擬ICU等でチーム医療研修を行い、また、地域の医師、看護師、コメディカルスタッフの生涯教育にも寄与する島根大学医学部附属病院クリニカルスキルアップセンターを設置することとしました。

H21年9月16日　○特殊診療施設センター長、副センター長の就任

職　名	氏　名	任　期
腫瘍センター長	鈴　宮　淳　司　教授	平21.9.11～平23.3.31
クリニカルスキルアップセンター長	狩　野　賢　二　講師	平21.10.1～平23.3.31
緩和ケアセンター副センター長	内　田　伸　恵　教授	平21.10.1～平23.3.31
子どものこころ診療部副部長	安　田　英　彰　助教	平21.10.1～平23.3.31

H21年9月16日　○副診療科長の変更

任期　平成23年3月31日まで

診療科名等	新	旧	発令日
精神科神経科	宮岡　剛	稲垣　卓司	平成21年10月1日

H21年9月16日　〇社会保険医療担当者の個別指導の結果に対する「改善報告書」について

平成21年7月9日（水）に実施された「中国四国厚生局及び島根県による社会保険医療担当者の個別指導」の結果に対する改善報告を行うことになりました。

H21年9月16日　〇平成21年度医療法第25条第1項及び第3項の立入検査について

平成21年9月10日（木）に実施された中国四国厚生局及び出雲保健所による立入検査の結果について報告がありました。

ボランティア活動について

〇ボランティアコンサートの報告

7月9日（木）

飯国優子さんによる「ピアノ弾き語りコンサート」

7月30日（木）

ビブラコール、グリーンエコーのみなさんと藤井眞一さんによる「合唱とホルンの調べ」

8月6日（木）

デュオ・ラ・メールのみなさんによる「クラリネットとピアノのアンサンブル」

8月26日（水）

林宏美さん、小田泰子さんによる「くつろぎコンサート」

研修会･講演会･学会等の お知らせ

臨床栄養部

名称	地域連携のための講演会
日時	平成 21 年 11 月 7 日（土） 13:00～16:00
場所	臨床大講堂
対象者	出雲市を中心とする医療圏の介護施設などの職員
内容	内視鏡的胃瘻造設術後の患者における長期管理の実際 1）胃瘻トラブルへの対策 2）栄養剤の胃食道逆流に対応するための栄養剤の半固形化の実際 3）各種合併症を有する患者における胃瘻からの栄養管理 4）誤嚥性肺炎予防のための口腔ケア
連絡先	臨床栄養部 （0853-20-2073）

名称	消化器･肝臓･健診予防内科による生活習慣病改善のための講演とパネル･ディスカッション
日時	平成 21 年 12 月 19 日（土） 14:00～16:00
場所	駅前パルメイト（定員 100 人）
対象者	出雲市を中心とする地域の一般市民
内容	1：食生活と逆流性食道炎について 2：健診における脂肪肝の頻度とその増悪因子 3：ピロリ菌感染と胃癌について -血液で行う胃癌健診の結果より - 4：胃癌･大腸癌･乳癌健診の有用性について -早期発見と逐年健診の重要性など - パネルディスカッション 「生活習慣病と食生活改善効果についての討論と市民の皆様の疑問に答える」
連絡先	臨床栄養部 （0853-20-2073）

精神科神経科

名称	第 50 回中国･四国精神神経学会 第 33 回中国･四国精神保健学会 合同開催
日時	平成 21 年 11 月 26 日（木） 8：55-17：15 平成 21 年 11 月 27 日（金） 9：00-15：20
場所	松江テルサ
対象者	会員、非会員
内容	テーマ「中国･四国の底力！みんなの精神医療」 特別講演、合同シンポジウム、ランチョンセミナー、一般口演 詳細は http://mediastream.jp/csps50/
連絡先	精神医学講座（0853-20-2262）

卒後臨床研修センター

名称	平成 21 年度島根大学医学部附属病院卒後臨床研修プログラムにおける「地域保健･医療研修」の研修機関からの説明会
日時	平成 21 年 10 月 10 日（土） 13:30～
場所	大会議室
対象者	初期研修医
連絡先	卒後臨床研修センター （0853-20-2006）

名称	卒後臨床研修センターセミナー
日時	平成 21 年 12 月 3 日（木） 18:30～
場所	看護学科棟 N11 講義室
対象者	医学科学生、初期研修医、後期研修医、指導医
連絡先	卒後臨床研修センター （0853-20-2006）

名称	文部科学省「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に伴う 3 大学･4 大学プログラム FD の開催
日時	平成 21 年 12 月 9 日（水） 14:30～
場所	大会議室
対象者	指導医、後期研修医、初期研修医
連絡先	卒後臨床研修センター （0853-20-2006）

地域医療教育研修センター

名称	平成 21 年度 島根県臨床研修指導医講習会
日時	平成 21 年 11 月 21 日（土）～11 月 23 日（月）
場所	看護学科棟
対象者	研修実施責任者、プログラム責任者、指導医
連絡先	地域医療教育研修センター （0853-20-2006）

名称	初期･後期卒後臨床研修プログラムセミナー
日時	平成 21 年 12 月 12 日（土） 13:30～
場所	臨床小講堂
対象者	臨床研修病院等管理者、研修実施責任者、プログラム責任者 指導医、臨床研修担当者、医科研修医、医学科学生
連絡先	地域医療教育研修センター （0853-20-2006）

注）島根県内で開催されるもの若しくは本院が主催するもので平成22年1月までの予定を掲載しています。

癒しのコーナー

我が家のペット

左：るる4歳♀
（ウエストハイランドホワイトテリア）
右：みにぃ1歳♀
（ヨークシャーテリア）
二匹はとても仲良しで、癒し満点です。
（医療サービス課 原陽子さん提供）

★当月号から癒しのコーナーとして「我が家のペット」を紹介しています。かわいいペットの写真と簡単なコメントを添えて編集委員会へお寄せください。

編集委員会からのお願い

★病院ニュースは年4回発行予定です。
各診療科、各部門、事務部からの投稿をお待ちしております。取り上げてもらいたいニュース、ＰＲなどを編集委員会へお寄せください。

担当
医療サービス課 医療支援室（内線２０６８） Email：renkei@med.shimane-u.ac.jp
（病院ニュースは、医学部ホームページの医学部掲示板にも掲載しております。）